



(まる) 博レポート

# 引札は伝える

—明治時代の商い—

新年の挨拶を兼ねた引札の「デザイン」は、商売繁盛を願つてえびすや大黒などの七福神や福助、縁起物となる富士山や松、鯛などが好まれ、当初は江戸時代の多色刷りの浮世絵版画である「錦絵」の技法を取り入れた華やかで美しいものでした。

引札の最盛期であった明治・大正時代には、「暦」や「郵便料金表」などの実用的な情報のほか、文明開化による日本の近代化を象徴する新しい職業や女性の最新ファッションなども絵の中に取り込まれ、石版多色刷りを使って、より鮮明な画像を大量に制作することができます。これにより、庶民へと広まっていきました。

上に示した引札を読み解くと、明治時代の南アルプス市を舞台に活躍したさまざまなお店やその活動の一端を知ることができます。これらの引札は、長年収集されてきた個人の方から「ふるさと〇〇博物館」の趣旨に賛同されてご寄贈いただいたもので、全部で十六点あります。

引札には小笠原や飯野、西野などの地区にかつてあった商店の名前が見え、菓子店が多く、他には魚商、呉服太物商、足袋商などがあります。

現在、ふるさと文化伝承館では寄贈されたほぼ全てを展示しており、来館者同士で昔を懐かしみながら思い出話を伺うこともできます。このようないわばファミリーヒストリーをつないでいくと、当時の地域の様子が見えてきます。引札が地域の物語を紡いでくれているようです。

実際に引札にある店主のお孫さんがお越しになり、多くのお話を伺うことができています。このようないわばファミリーヒストリーをつないでいくと、当時の地域の様子が見えてきます。引札が地域の物語を紡いでくれているようです。

明治期に花開いた市内の商人たちのエネルギーを感じただければ幸いです。

写真文 文化財課

\*太物：「ふともの」と読み、絹織物に対して、綿織物や麻織物のことと称した。

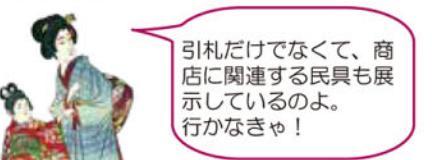
中巨摩郡小笠原二丁目／金丸商店  
今も土蔵の屋根に同じ屋号の瓦が輝いている。しかし表示されているような商品を扱っていた記憶はほぼ伝えられていない。



榊村上宮地／横内安平  
上宮地での足袋商については詳細はわかっていない。引き続き情報募集中。



中巨摩郡西野村／笹本永作  
地域の方のお話では、菓子屋を営んでいたのは大正時代までだが、昭和の中ごろまでは「菓子屋」と呼ばれていたとのこと。



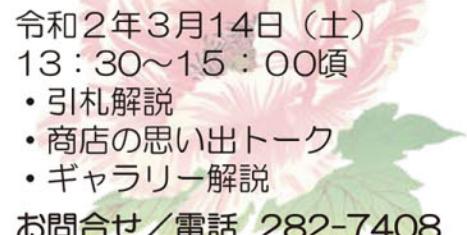
## ふるさと 文化伝承館

【〇博トーク】  
「引札がつないだ明治期の  
南アルプス市」

令和2年3月14日（土）  
13:30～15:00頃

- ・引札解説
- ・商店の思い出トーク
- ・ギャラリー解説

お問合せ／電話 282-7408



令和元年度第2回テーマ展

### ふるさとの新春引札を彩った

HIKIFUDA

4月19日まで  
開催中



広告主・店名

新津助次郎

印刷所

所在地

「中巨摩郡大井村」  
この他、「小笠原宿」  
や、「榊村」などかつての呼び方や地名を知  
ることができる。

図柄

恵比寿と大黒の楽しそうな宴席に、  
鯛や富士山など縁起のよい福々しいグッズが散りばめられている。

新年のあいさつを兼ねた引札では、  
めでたいものの代名詞というべき「富士山」「初日の出」「鶴」などが江戸時代から盛り込まれてきた。

また、明治時代には、憧れの職業であつた郵便配達員や最新ファッションなど、時代性が加えられていく。



女学生のファン  
ションは当時憧  
れの的なの！